

「甘夏を作って 3代目」

松田 拓也 (22歳) 新規学卒
(南宇和郡愛南町)



1 就農の動機・理由

家が柑橘農家で、小さい頃から祖父や父の手伝いをしながら育った。自然と「自分が後を継ぐ」と思うようになり、高校卒業後の進路を決める時に就農を決意した。

高校卒業後は、父も研修を受けた果樹研究所口之津拠点で2年間、柑橘の栽培技術等を学んだ。

○農業用施設

農業用倉庫 1棟 250㎡

○主要農業機械

2tトラック 1台

動力噴霧器 1台

運搬車 1台

2 農業経営の概要

○経営の展開

項目	就農前の経営 (平成21年)	現在の経営 (平成27年)	将来の経営 (平成32年)
労働力	男1人 (祖父) 女1人 (祖母)	男1人 (本人)	男1人 (本人)
経営耕地	畑 25a 畑 3a 樹園地 230a 計 258a	樹園地 258a 計 258a	樹園地 258a 計 258a
経営内容	水稻 25a 野菜 3a 甘夏 150a 河内晩柑 20a その他柑橘 60a	甘夏 97a 河内晩柑 67a その他柑橘 84a ブルーベリー 5a タマリロ 5a	甘夏 97a 河内晩柑 67a その他柑橘 84a ブルーベリー 5a タマリロ 5a

3 あしあと

(1) 就農までの主な経歴

出身地 南宇和郡愛南町
(旧城辺町)

就農研修歴

平成23年4月

～平成25年3月

果樹研究所口之津拠点

就農年月 平成25年4月

(2) 就農後の経営の展開過程

平成26年からは体調を崩していた祖父の経営を引き継ぎ、経営主になった。父親も農業を営んでいるが、以前から祖父とは別の経営にしていた。

愛南町の特産品である甘夏と河内晩柑を柱とした柑橘中心の経営を行っているが、平成25年の就農以降、研修中に気に入った柑橘の有望品種「西南のひかり」や地元直売所での販売を狙った「ブルーベリー」、「タマリロ」等、新たな作物の栽培も開始している。

4 就農時の取り組み

(1) 就農地の確保

祖父の経営を引き継いだ。

(2) 技術・経営能力等の習得

果樹研究所口之津拠点での2年間の研修により、基礎的な栽培管理技術は身につけていた。

実際の圃場での作業は、別経営で柑橘栽培を行っている父親から、厳しい指導を引き続き受けている。

また、共同販売をしている第一マルエム青果の他のメンバーや、加入している青年農業者組織の会員との情報交換等も役立っている。

(3) 資金の確保

祖父の経営を引継いだため、施設、機械等の導入費用は必要なかったが、収穫時の雇用労賃等の運転資金の資金繰りを楽にするため、「青年等就農資金」を借り入れた。

また、「青年就農給付金」を受給している。

(4) 住宅の確保

実家で両親等、家族と同居している。

(5) その他

野生鳥獣による農作物被害軽減のため、猟銃の所持許可と狩猟免許を取得した。

5 農業経営の特徴

県内では甘夏の栽培面積が減少しているが、祖父が作り始めた甘夏を経営の中心としている。

有機質肥料にこだわり、樹齢30年以上の木から収穫される甘夏は、糖度も高く、取引先から根強い人気がある。

6 今後の経営の目標

これまでに身につけた技術を活かし、品質向上と収量アップを目指す。

まだ知名度の低い河内晩柑の販路開拓を、国内外で進めたい。

7 成功したキーポイント

祖父の経営基盤があったことと、就農に向け2年間の研修を受け、柑橘栽培に必要な基礎的な知識と技術を身につけていた。

8 就農を目指す方へのアドバイス

後継者不足など大変な面もありますが、自分の努力次第で年収アップを目指せることや、地域の方々との縁がたくさんできることなど、農業には苦勞を上回る楽しさがあります。

「努力は必ず結果としてついてくる！」

皆さんも一緒に、これからの柑橘栽培を盛り上げていきましょう。

○ 指導機関からのひとこと

経験を積み、お祖父さんやお父さんを超えるような農業者になれることを期待しています。また、剣道で鍛えた心身で、青年農業者組織活動でもリーダーとして活躍してください。

執筆機関

南予地方局産業振興課地域農業室

愛南農業指導班

電話番号 0895-72-0149



H27.7 台湾での河内晩柑PRに参加